

## 5. 工事中

### (1) 工事中の交通への影響

- ① 工事車両による目白通りや大泉学園通り、大泉街道などの渋滞や安全性低下への懸念
- ② 工事期間中の生活道路機能の確保についての懸念

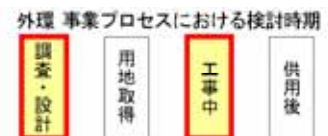
○これまでに頂いた意見

- 工事中に生活道路の分断や工事車両で歩行者が危険になるのではないかと心配なので、外環本線の工事の前に、安全な通路を確保する仮工事を行って欲しい。
- 工事期間中に、買物などに利用する生活道路が混雑したり、利用できなくなるのではないかと心配している。回り道などの案内看板などで誘導して、支障のないように徹底して欲しい。

(国)

➤ 大泉ジャンクションに係る工事用車両については、関越道に直接乗り入れできるようにし、目白通りや大泉学園通り、大泉街道など地域の一般道を極力利用しない計画とします。また、一般道を利用する場合には、工事用車両の台数、運行ルート、運行時間等について地域のみなさまへ説明するとともに、意見を聴きながら周辺地域への影響が小さくなるよう努めます。

➤ また、工事中に分断が生じる道路については、切り回し等の道路の設置により必要な機能を工事前までに確保します。また、切り回し等の対策の具体化にあたっては、地域のみなさまの意見を聴きながら対応します。



(2) 工事中の環境への影響

- ① 工事に伴う騒音・振動や粉塵、工事用車両による排気ガス等による環境への影響に関する懸念
- ② 工事に伴う地下水、土壌、水質への影響に関する懸念
- ③ 工事に伴う土地の隆起や地盤沈下に関する懸念

○これまでに頂いた意見

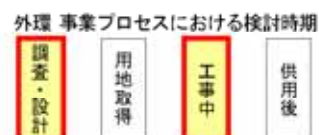
- 工事車両による排気ガス等による環境への影響に関して懸念されるので、工事車両が通るルートをはっきり示してほしい。

(国)

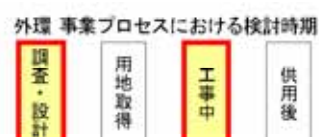
➤ 環境への影響については、環境影響評価法に基づき、事業特性や地域特性を勘案のうえ、環境影響評価を適切に実施し、工事の実施における建設機械の稼働及び工事用車両の走行に係る大気質(二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉塵等)、騒音、振動について予測・評価した結果、整合を図るべき基準等を達成すると考えています。

➤ 工事の実施にあたっては、環境保全措置として、工事施工ヤードの仮囲いの実施、排出ガス対策型・低騒音型・低振動型の建設機械を使用することなどにより、さらに環境負荷の低減を図ります。

➤ 工事中の地下水位については、施工方法や工事内容に応じたモニタリング方法について関係機関等との協議を十分に行い、周辺の地下水利用状況も考慮した上で実施し結果について公表します。



➤ なお、工事の実施にあたっては、関係機関と協議を行い、周辺地域への環境影響を極力抑えた工事計画とするとともに、地域の住民のみなさまに対しては、工事の内容、方法、期間などについて周知を徹底します。



参考: 工事中の環境への影響について

工事中に実施する主な環境保全措置

工事に伴う二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等、騒音、振動、地下水などへの影響保全措置を実施します。

また、工事実施に伴う作業計画の作成にあたっては、各関係機関と協議を行い、周辺地域への環境影響を極力抑えた計画とします。

工事中に実施する主な環境保全措置は以下のとおりです。

環境保全措置の内容	環境保全措置の効果
工事中の散水、タイヤ洗浄、施工ヤードに仮囲いの設置	工事中の散水、タイヤ洗浄、仮囲いの設置をすることによる粉じん等の発生又は拡散を低減します。
防音パネルの設置	工事敷地境界に防音パネルを設置し、騒音の影響を低減します。
排出ガス対策型、低騒音型、低振動型の建設機械の採用	二酸化窒素、浮遊粒子状物質、騒音、振動の発生を低減します。
作業方法の改善	アイドリングストップの励行、高負荷運転の抑制等により二酸化窒素、浮遊粒子状物質、騒音、振動の発生を低減します。
工事用車両の高速道路への誘導及び分散通行	工事用車両については、高速道路に直接乗り入れできるようにし、地域の一般道を極力利用しないことにより、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等、騒音、振動の発生を低減します。
地下水流動保全工法の採用	工事実施時から地下水流動保全工法を実施し、地下水位の保全に努めます。
建設副産物の再資源化・再利用化	建設発生土は再利用に努め、建設汚泥についてもできる限り再利用し、それ以外は適正に処理・処分します。コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊は再資源化を図ります。

アイドリングストップの励行



排出ガス対策型・低騒音型・低振動型の建設機械の採用



タイヤ洗浄



④ 工事期間中の地下埋設物への対処に関する懸念

○これまでに頂いた意見

- 地下埋設物への対処がどの様に行われるのか不安。

(国)

- ジャンクションの設置にあたり、ライフライン等の地下埋設物が分断される場合には、当該機能を確保するための代替施設について、地域のみなさまに影響を及ぼさないよう管理者と十分協議していきます。

(3) 工事中の安全性

① 工事中における子供や高齢者などの交通の安全性の確保についての懸念

○これまでに頂いた意見

- こどもの安全確保のため、工事車両の生活圏内への進入や、通行時間帯を制限する。

(国)

- 工事の実施にあたっては、作業員等の指導・教育の徹底を図るとともに、工事区域を明確化し、通学路等を含めた道路の交通安全対策としてガードフェンス、バリケード等で囲うとともに、工事用車両出入口付近には誘導員を配置するなど、交通安全や円滑な交通の確保に努めます。

- 工事区域内における風紀悪化が生じないように、工事現場周辺のイメージアップを図るなどの対策を実施するとともに、練馬区とも連携し安全・安心の対策に取り組んでまいります。

外環 事業プロセスにおける検討時期

